



crossing cafe



Vol.19

2025.2.1

発行:スペースベン
毎月1日 342部発行
(webでも配信中)
<https://bit.ly/3U8LdnL>

FANS 第1620回 《佐藤拓之 即興演劇 vol.7》

おふたりさま

佐藤拓之 (タナト) 倉品淳子 (くらしん)

7回目となる佐藤拓之即興演劇「おふたりさま」が、ゲストを迎えた「おふたりさま」となって開催。

●前売料金 一般 2,000円 (当日各500円増) 学生 1,000円

※特別番組で料金が通常と違いますのでご了承ください

●劇場 space BEN

※公共交通機関でおいでいただくか近くのアパホテル裏の西町駐車場またはタイムズ八戸柏崎(どちらも有料)などをご利用ください

<https://livepocket.jp/e/fans1620>

TOPIC

佐藤拓之 即興演劇 vol.7

おふたりさま

台本なし 舞台装置もありません
あるのは役者の身ひとつ
おひとりさまからおふたりさまへ
そこにお客のお題を添えて
さて あがって ごろうじませ

2025年 2月21日(金)

18:30開場 19:00開演

- アフタートークあり
※トークも入れて90分を予定
公演後、交流会がありますので
お時間のある方はご参加ください

投げ銭歓迎

〈チケット予約〉

<https://t.livepocket.jp/e/fans1620>

問合/スペースベン owner@spaceben.com
☎080-6025-0990 ※出られない時は折り返しご連絡します

〈スペースベン 2月の予定〉

FANS 予定 第1618~1621回

毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円/大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)

2月21日(金) 佐藤拓之 即興演劇 vol.7「おふたりさま」

料金/一般2,000円 学生1,000円(当日各500円増) ※特別番組で料金が通常と違いますのでご了承ください

「だべり場」「かたり場」「ほだれ場」随時開催しています ■2/28(金) ほだれ場 19:30-21:00予定

〈Dance Lesson〉

- 毎週火曜日 20:15-21:45/KAZU HIPHOP DANCE SCHOOL
- 最終水曜日 19:30-20:30/SEGA HIPHOP
- 毎週土曜日 16:30-18:00/BRE FAM HOUSE DANCE HARUクラス

〈古典戯曲を味わう会〉

国内外の古典戯曲から参加者で選んだ作品を読み、楽しむ企画です。
■2月は第2・4水曜日(通常毎月第1・3水曜日開催) 14:00-15:30予定。
※バーナード・ショー「ビッグリオン」を予定
※参加費¥100。Zoomにて開催中。日時等変更になる場合があります。

〈Free Column〉

劇場の
片隅から

文/安達 良春

気がつけばcrossing cafeも19号を数える。ホントに早いものだ。

コラムを書く為にcrossing cafeの前身となるスペースベンのフリーペーパー「かわら版」の事を思い返し、自分が書いた「世の中面白い事ばかりじゃないけど、何か面白い事を探していこうじゃありませんか」という言葉を思い出した。何年前に書いたのかも思い出せないが、今も殆ど気持ちは変わっていない。これはブレが無いと言ってよいのだろうか。それとも、進歩が無いということなのか…?

〈theater information〉

NOW
PRINTING

八戸パフォーマンス☆シアター

【日時】2025.2.23(日) 13:00開演
【場所】SG GROUP ホールはちのへ
(八戸市公会堂)

【料金】¥500

【問合】(株)アート&コミュニティ
☎0178-44-7171

八戸市および近隣を中心に活動している団体や個人に公会堂の舞台で発表する機会を提供することを目的としたイベント。

2024年度パフォーミングアーツ公演事業
アトリエ・センターフォワード 演劇公演
二人芝居

「演劇落語～宿屋の仇討・抜け雀」

【日時】2025.3.1(土)・2(日)

13:30開場 14:00開演

※3/2(日)はアフタートークあり(20分程度)

※未就学児の入場不可

※裏側をのぞいてみよう 演劇舞台編②

2/27(木)・28(金) 18:00~19:00

アトリエ・センターフォワードの舞台づくりや

稽古の様子を客席から見学できる。

※無料。要予約。20名程度

※トークはありません

【場所】八戸ポータルミュージアム

はっち シアター2

【料金】一般 2,000円

大学生・専門学校生 1,500円

高校生以下 1,000円

早割り 1,800円 ※一般のみ

各日限定15枚・2週間前まで販売

【チケット取扱】

はっち1階インフォメーション

電話やウェブからの事前予約可。

※早割りチケットは電話・ウェブ予約の方も

①3/1公演分は2/14(金)まで

②3/2公演分は2/15(土)までにご購入

【問合】はっち ☎0178-22-8228

<https://hacchi.jp>

古典落語の素材をリスペクトしながら

二人芝居でみせる現代演劇シリーズ。

特別寄稿

ひとの世に熱あれ

～木村勝一・東大『再生の樹』展示評～

文/戸田 昌征
(バスキングジャパン代表)

アウシュビッツのあとに詩を書くことは野蛮だという。
真善美を持つとする側が、そうでないとされる側をどうしたか、今は知っているから。
芸術のアイデアはもうなくて、なにかをつくる人々は、それぞれに切迫したものを差し出すしかない。

2024年12月～翌1月、東京大学・本郷キャンパスにおいて、木村勝一作ツリーハウス『再生の樹』の野外展示、および関連パフォーマンス(ディビット・マッシューズ・トリオのホールコンサート、台湾タイヤル族の歌い手エリ・リャオの樹上ライブ)に立ち会った。

キャンパスのど真ん中に屹立するツリーハウス。
物理的威容とキメラのようなディテールで、アカデミックな空間を圧する造形作品。

そのツリーハウスには近所からあつまった家族連れが列をなし、子供も大人も嬌声をあげてのぼっていた。

彫刻作品としての『再生の樹』とはなにか。

その本質は「もの自体」にあるのではないと私は考える。
それは東日本大震災のあと、打ち捨てられた廃材でつくられた。マレビトのように被災地にあらわれ、サーカス小屋のように忽然と消えるツリーハウス。気仙沼ではキャンドルの灯りで様々なライブもおこなわれたという。

子供も大人も生者も死者もだんごになって遊ぶ、その笑顔や歓声は熱と光となり、痛ましい魂の眠る三陸の海をひととき照らしただろう。まるで灯台のように。

「世界をあたためる」

そのまぼろしのようなひとときが、この作品の本質だろうとおもう。

『再生の樹』は一義的には造形作品だが、その価値は美的価値でなく「熱の時間」の創出にあるのだ。

ヨーゼフ・ボイス(1921-1986)というドイツの現代美術作家がいる。

自らも従軍したナチスの罪を生涯抱えながら、社会そのものが彫刻作品であるという「社会彫刻」を唱え、『7000本の榎の木』という植樹プロジェクトを作品としたアーティスト。前衛的かつ神秘的な作品群は、伝統的な美術の観点からは捉えがたいものばかりであったが、一貫して「世界を温め、流動させ、再生させる」という志向が底流にあった。

『再生の樹』を視ていると、私はボイスを想うかべてしまう。

本作が彫刻という空間芸術でありながら、「まぼろしのひととき」を本質とするのは、木村勝一が演劇出身という要素がきつと大きい。

一般に演劇とは、作者が書いたセリフを、役者がそれらしい所作で再現し、照明や音響の効果をくわえて劇場で上演され、観客に物語を想像させる興行、くらいに認識されている。

しかしある種のひとは、それら諸要素は「劇」にとって本当に必要なのか、と問う。

あるいは、まったく遠い要素をもちいて、まったく違う文脈に置いた時に、より切迫した「劇」が起ちあがるのではないかと企てる。

このような試みは演劇の側がある場合もあるし、別の領域から到来することもある。今回のように別の領域と接近して、ほとんど重なってしまう表



木村勝一作ツリーハウス『再生の樹』

現もあるだろう。

それはなぜか社会的な危機のときに多く問直されるようだ。

『再生の樹』が「もの」でありながら「劇的時間」を本質とするのは、頭でかんがえたコンセプトありきではきつとない。

木村が震災の危機に真摯に向きあって立ち現れた、生来の作家性だったと考える。

アウシュビッツの後のいまの世界を、美しく描くのは難しいかもしれないが、少しでも温めることはできるかもしれない。

●筆者近況

本欄とは別な視点の論考を、木村勝一写真展で発表しました。
ツリーハウスとは何か、宇宙樹信仰を軸に、人類史二百万年をさかのぼる少し長い論考です。気になる方はご一報を。

FANSで上演・LIVEをやってみませんか?

ジャンルは問いませんので、まずはお気軽にご相談ください



Director

田中 勉

〒031-0081 八戸市柏崎1-11-8
mobile 080 (6025) 0990 Fax.050 (3588) 8350
e-mail owner@spaceben.com

<https://spaceben.com/>

crossingcafe

fanscross

crossingcafe

crossingcafe

@fanscafe



FANSってナンだ!?

小劇場「スペースベン」にて、毎週金曜日の夜7時30分から、約30分の芝居を楽しんでいただく企画です。芝居に限らずライブ・ダンス等、ジャンルの枠にとらわれず、金曜日の夜には“ここで何かおもしろい事をやっている”という場になればと思います。なお、料金は特別番組以外全て前売り500円、学生は200円です(当日100円増し)。上演の場を求めている方、刺激を求めているあなた、ご連絡お待ちしております。